

感染症定期報告の状況

感染症定期報告の報告状況(医療機器2005/4/1~2005/11/30)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/04/11	58001	日本メドトロニック株式会社	人工心肺用血液回路 その他のチューブ及びカテーテルの周辺関連器具(ディスプレイカニューレ) 人工心肺装置の付属品(貯血槽) 人工心肺用ポンプ 人工心肺装置の付属品(流量測定用コネクタ) 模型人工肺 滅菌済み開心術用チューブ及びカテーテル 人工心肺装置の付属品(心内血貯血槽)	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	Virology 330: 501-505, 2004	兵庫県森林に生息するイノシシ3頭にHEVRNAが確認された調査を起点に、野生界でのイノシシとシカの間にはHEV感染異種間伝播がうかがえ、以前に示唆されたように両動物にもヒトの感染源となりうる事が推察された。日本人は生肉を食べることから野生動物からHEVを獲得するリスクが高い。
											HEV	現代医療 36: 2211-2216	E型肝炎の浸淫国・非浸淫国に係わらずブタがHEV抗体を保有し、多くの動物からHEV抗体が検出され、ブタがヒトでのHEV感染宿主になっている可能性が示唆されている。国内感染源としてブタ・イノシシ・シカなど野生動物が存在する事は確かである事から、ブタ由来内臓やシカ、イノシシなどの野生動物の肉・内臓について生食は避け充分に加熱することが感染予防として重要である。
											トリインフルエンザ	Journal of Virology 78: 8609-8614, 2004	香港の家畜市場においてウイルス進化の研究を行った結果、少なくとも6種類の遺伝子型が認められた。これらの結果は、香港のH9N2ウイルスの遺伝的や生物学的多様性の増加を示し、汎流行性の潜在的役割を支持している。
											トリインフルエンザ	現代化学 404: 27-31, 2004	新型インフルエンザウイルス遺伝子は、すべて自然界のゲノムプールである水禽(カモ)のウイルスに起源があることから、カモ、家畜とブタのインフルエンザの疫学調査を地球規模で実施し、ウイルスの分布を明らかにすれば、これから出現する新型インフルエンザウイルスの亜型を予測し予防対策をとることが出来る。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	化学療法の領域 20: 1655-1661, 2004	インフルエンザAウイルスの宿主域とレセプター特異性についての解説。A型インフルエンザウイルスのレセプター認識、及びインフルエンザAウイルスの宿主間伝播(鳥由来ウイルスの馬・海生ほ乳動物・ミンク・豚への宿主間伝播、人由来インフルエンザAウイルスの豚への宿主間伝播、豚由来のインフルエンザAウイルスの人へ宿主間伝播)についての述べている。さらに、世界規模で流行する新型インフルエンザウイルスのブタ体内での2つの発生機序、及び鳥からヒトへの伝播(香港の流行例)を示している。
2005/04/11	58002	日本メドトロニック株式会社	生体人工心臓弁	生体人工心臓弁	ブタ大動脈弁および大動脈基部	米国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	Virology 330, 501-505, 2004	兵庫県森林に生息するイノシシ3頭にHEVRNAが確認された調査を起点に、野生界でのイノシシとシカの間にはHEV感染異種間伝播がうかがえ、以前に示唆されたように両動物にもヒトの感染源となりうる事が推察された。日本人は生肉を食べることから野生動物からHEVを獲得するリスクが高い。
											HEV	現代医療 36: 2211-2216	E型肝炎の浸淫国・非浸淫国に係わらずブタがHEV抗体を保有し、多くの動物からHEV抗体が検出され、ブタがヒトでのHEV感染宿主になっている可能性が示唆されている。国内感染源としてブタ・イノシシ・シカなど野生動物が存在する事は確かである事から、ブタ由来内臓やシカ、イノシシなどの野生動物の肉・内臓について生食は避け充分に加熱することが感染予防として重要である。
											トリインフルエンザ	Journal of Virology 78: 8609-8614, 2004	香港の家畜市場においてウイルス進化の研究を行った結果、少なくとも6種類の遺伝子型が認められた。これらの結果は、香港のH9N2ウイルスの遺伝的や生物学的多様性の増加を示し、汎流行性の潜在的役割を支持している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	現代化学 404: 27-31, 2004	新型インフルエンザウイルス遺伝子は、すべて自然界のゲノムプールである水禽(カモ)のウイルスに起源があることから、カモ、家畜とブタのインフルエンザの疫学調査を地球規模で実施し、ウイルスの分布を明らかにすれば、これから出現する新型インフルエンザウイルスの亜型を予測し予防対策をとることが出来る。
											トリインフルエンザ	化学療法の領域 20: 1655-1661, 2004	インフルエンザAウイルスの宿主域とレセプター特異性についての解説。A型インフルエンザウイルスのレセプター認識、及びインフルエンザAウイルスの宿主間伝播(鳥由来ウイルスの馬・海生ほ乳動物・ミンク・豚への宿主間伝播、人由来インフルエンザAウイルスの豚への宿主間伝播、豚由来のインフルエンザAウイルスの人へ宿主間伝播)についての述べている。さらに、世界規模で流行する新型インフルエンザウイルスのブタ体内での2つの発生機序及び鳥からヒトへの伝播(香港の流行例)を示している。
2005/04/18	58003	ポストン・サイエンティフィックジャパン株式会社	心臓ペースメーカーの付属品	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	米国/カナダ	有効成分	無し	無し	無し			
2005/04/26	58004	エドワーズライフサイエンス株式会社	生体人工心臓弁	ウシ心のう膜	ウシ心のう膜	米国	有効成分	有り	無し	無し	BSE	カナダ食品検査HP http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/disemala/bseesb/ab2005/2investe.shtml	カナダで2症例目となるBSEの調査。1996年に出生した8歳の乳牛にてBSEが確認された。CFIJ(カナダ食品検査庁)はこの牛が生まれた年の間に肉骨粉を含む飼料を通じてBSEの感染レベルは低いことを明らかにした。曝露の程度や潜伏期間の関係から、この牛の年齢から、肉骨粉を含む飼料の禁止が法的に禁止となった1997年の飼料のBSE感染力は最も少ないであろうと裏づけた。
											BSE	カナダ食品検査HP http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/disemala/bseesb/ab2005/3investe.shtml	カナダのアルバータで3例目となるBSEの調査レポート。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省HP報道発表資料 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/02/h0204-3a.html	平成元年頃、1ヶ月間英国渡航歴のある男性にて、国内における最初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)例として確定された。輸血歴無ことから、短期間ではあるが、英国滞在の曝露の可能性が現時点では有力と考えられる。
											トリインフルエンザ	Science 305: p1385, 2004	鳥インフルエンザ株H5N1が猫に感染させることが出来、またネコ科動物が他のネコ動物にウイルスを伝播でき、ヒトにも伝播させる可能性を裏付けた。WHOのウイルス学専門家によると、ブタ集団にH5N1が定着すると、の徴候はまだないが、H5N1が発見された国々にブタの調査を行うよう促している。
											HEV	Journal of Clinical Microbiology 42: 5047-5052, 2004	ブタでの糞口経路による試験によるHEV伝播の最初の報告。
											HEV	Virology 330: 501-505, 2004	兵庫県森林に生息するイノシシ3頭にHEVRNAが確認された調査を起点に、野生界でのイノシシとシカの間にはHEV感染異種間伝播がうかがえ、以前に示唆されたように両動物にもヒトの感染源となりうる事が推察された。日本人は生肉を食べることから野生動物からHEVを獲得するリスクが高い。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/05/10	58006	株式会社メディコ スヒラタ	旧)滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル、新)ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロデューサキット 旧)滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル、新)ヘパリン使用医薬品投与血管造影用カテーテル 旧)その他のチューブ及びカテーテルの周辺関連器具(カテーテル挿入セット)、新)ヘパリン使用カテーテルイントロデューサ 旧)滅菌済み血管処置用チューブ及びカテーテル、新)ヘパリン使用心臓・中心循環系カテーテルガイドワイヤ ヘパリン使用血管用カテーテルガイドワイヤ	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	肝臓 45: 688-688, 2004	北見日赤病院にて患者1名がE型劇症肝炎により死亡。焼肉店にて患者と同会食した親族を含め、HEVに陽性が明らかになったことから、加熱不十分なブタ肝の摂取が重視すべき感染源である。
											サルモネラ	Emerging Infections Diseases 10: 1665-1667, 2004	ニューヨークとシカゴにてウガンダ血清型と識別されたsalmonella enrerica株に関連した流行が発生した。同血清型はヒト感染源としてさらに高頻度に出現する可能性があるとして示唆している。
											サルモネラ	Epidemiology and infvction 132: 881-887, 2004	2001年ドイツにて、発酵ソーセージの摂食とSalmonella Goldcoast(SGC)感染との関連性があった。サルモネラを減少させるには照射殺菌が有効であるが、ドイツの消費者は生材料の照射殺菌を好まない。よって、HACCP等の管理が必要である。
2005/05/26	58007	平和物産株式会社	人工心肺装置の付属品(動脈フィルター)	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	-	有効成分	無し	無し	無し			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/05/26	58008	アボット・ジャパン株式会社	滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル 滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル 滅菌済み心臓用チューブ及びカテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	米国、カナダ	有効成分	有り	無し	無し	トリインフルエンザ	化学療法の領域 20: 1655-1661, 2004	インフルエンザAウイルスの宿主域とレセプター特異性についての解説。A型インフルエンザウイルスのレセプター認識、及びインフルエンザAウイルスの宿主間伝播(鳥由来ウイルスの馬・海生ほ乳動物・ミンク・豚への宿主間伝播、人由来インフルエンザAウイルスの豚への宿主間伝播、豚由来のインフルエンザAウイルスの人へ宿主間伝播)についての述べている。さらに、世界規模で流行する新型インフルエンザウイルスのブタ体内での2つの発生機序、及び鳥からヒトへの伝播(香港の流行例)を示している。
											ニパウイルス	臨床と研究 81: 1600-1604, 2004	ニパウイルスについての過去の事例と最近の事例について明確になった事実を解説。
											HEV	治療学 38: 964-967, 2004	輸入感染症とみなされてきたE型肝炎について、地域差と男女差・人畜共通感染の証拠・人畜共通感染以外の感染経路・感染源は動物かどうか疫学について概説。
											HEV	臨床医 30: 1658-1661, 2004	先進国での人畜共通感染としての散发性E型肝炎の起因ウイルスであることが明らかになった。感染源および感染ルートに焦点をあて、日本におけるE型肝炎についての新しい知見を概説。
											寄生虫感染	養豚の友 426: 56-59, 2004	旋毛虫症に関する解説。更に旋毛虫症の特徴や食肉に関する安全対策における問題点について。
											サルモネラ	Emerging Infectious disease 12: 2225-2227, 2004	Salmonella enterica serovar Typhimuriumがオランダの囊状のブタ、子牛、小児から分離された報告。非食品媒介性の動物間及び動物-ヒトの伝播である事を示唆しており、ブタを経由した可能性が高い。家畜と密接な関わりを持つ者は、一般的な衛生上のガイドラインを厳守するべきと示唆している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レトロウイルス	Transplant immunology 13: 15-24	豚ブタ内在性レトロウイルス感染について。豚末梢血単核球(PBMC)をドナー組織として使用し、ヒト化重度複合免疫不全(SCID)ベージュマウスにおける豚内在性レトロウイルス(PERV)伝染について調べた実験結果よりPERV感染のみに原因があるマウスはいなかったとの報告。
											トリインフルエンザ	Science 305: p1385, 2004	鳥インフルエンザ株H5N1が猫に感染させることが出来、またネコ科動物が他のネコ動物にウイルスを伝播でき、ヒトにも伝播させる可能性を裏付けた。WHOのウイルス学専門家によると、ブタ集団にH5N1が定着すると、の徴候はまだないが、H5N1が発見された国々にブタの調査を行うよう促している。
											寄生虫感染	Cellular Microbiology 6:867-881	Hep-2上皮細胞によるS.suisの付着性と侵入性についての評価を行い、この実験結果から、S.suisNT株の侵入と生存が認められたことから、S.suisが遺伝的変異と調節によって幅広い毒性特性を示す裏付けが明らかになったとの報告。
2005/04/21	58009	東郷メディキット株式会社	滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル 滅菌済み人工腎臓用留置針	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	添加物	無し	無し	無し			
2005/06/02	58010	川澄化学工業株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	中国	添加物	無し	無し	無し			
2005/06/16	58011	平和物産株式会社	人工心肺装置の付属品(貯血器)	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	-	有効成分	無し	無し	無し			
2005/06/16	58012	平和物産株式会社	人工心肺装置の付属品(動脈フィルター)	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	-	有効成分	無し	無し	無し			
2005/06/21	58013	フォルテグロウメディカル株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	-	有効成分	無し	無し	無し			
2005/07/14	58014	泉工医科工業株式会社	人工心配用血液回路	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	米国	添加物	有り	無し	無し	口蹄疫	OIE Disease Information 18(12): (25 March 2005)	香港にて典型的な口蹄疫ウイルス症状が報告され、過程等は不明であり、調査は継続中とのこと。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	ProMED Animal Net Archives 14 May 2005	ジャワ島のブタからH5N1型トリインフルエンザウイルス株を発見した。同型のウイルスは東南アジア各地でトリからヒトに感染伝播し死亡患者あり。中国の科学者が発見したH5N1型ウイルスについては詳細不明。
											炭疽	ProMED Animal Net Archives 30 May 2005	Rostov地域ロシア連邦菌球事態省よりDobovsk村にて屠殺されたブタより単発例の炭疽菌が発見されたと報告された。追加検査でこのブタが炭疽に感染している事が確認された。
2005/07/14	58015	泉工医科工業株式会社	人工心肺装置の付属品	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	米国	添加物	有り	無し	無し	口蹄疫	OIE Disease Information 18(12): (25 March 2005)	香港にて典型的な口蹄疫ウイルス症状が報告され、過程等は不明であり、調査は継続中とのこと。
											トリインフルエンザ	ProMED 20050515-0050 Animal Net Archives 14 May 2005	ジャワ島のブタからH5N1型トリインフルエンザウイルス株を発見した。同型のウイルスは東南アジア各地でトリからヒトに感染伝播し死亡患者あり。中国の科学者が発見したH5N1型ウイルスについては詳細不明。
											炭疽	ProMED 200500605-0060 30 May 2005	Rostov地域ロシア連邦菌球事態省よりDobovsk村にて屠殺されたブタより単発例の炭疽菌が発見されたと報告された。追加検査でこのブタが炭疽に感染している事が確認された。
2005/07/14	58016	泉工医科工業株式会社	模型人工肺	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	米国	添加物	有り	無し	無し	口蹄疫	OIE Disease Information 18(12): (25 March 2005)	香港にて典型的な口蹄疫ウイルス症状が報告され、過程等は不明であり、調査は継続中とのこと。
											トリインフルエンザ	ProMED 20050515-0050 Animal Net Archives 14 May 2005	ジャワ島のブタからH5N1型トリインフルエンザウイルス株を発見した。同型のウイルスは東南アジア各地でトリからヒトに感染伝播し死亡患者あり。中国の科学者が発見したH5N1型ウイルスについては詳細不明。
											炭疽	ProMED 200500605-0060 30 May 2005	Rostov地域ロシア連邦菌球事態省よりDobovsk村にて屠殺されたブタより単発例の炭疽菌が発見されたと報告された。追加検査でこのブタが炭疽に感染している事が確認された。
2005/07/14	58017	泉工医科工業株式会社	人工心肺装置の付属品	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	米国	添加物	有り	無し	無し	口蹄疫	OIE Disease Information 18(12): (25 March 2005)	香港にて典型的な口蹄疫ウイルス症状が報告され、過程等は不明であり、調査は継続中とのこと。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	ProMED 20050515-0050 Animal Net Archives 14 May 2005	ジャワ島のブタからH5N1型トリインフルエンザウイルス株を発見した。同型のウイルスは東南アジア各地でトリからヒトに感染伝播し死亡患者あり。中国の科学者が発見したH5N1型ウイルスについては詳細不明。
											炭疽	ProMED 200500605-0060 30 May 2005	Rostov地域ロシア連邦菌球事態省よりDobovsk村にて屠殺されたブタより単発例の炭疽菌が発見されたと報告された。追加検査でこのブタが炭疽に感染している事が確認された。
2005/07/20	58018	日本シャーウッド株式会社	滅菌済み中心静脈注射用チューブ及カテーテル	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	添加物	無し	無し	無し			
2005/07/27	58019	生化学工業株式会社	ブタ歯胚組織使用歯周組織再生用材料	エナメルマトリックスデリバティブ	幼若ブタの歯胚	スウェーデン	有効成分	有り	無し	無し	トリインフルエンザ	OIE Disease Information 18 (21): (27 March 2005)	インドネシアにてブタからトリ由来インフルエンザウイルス(H5N1亜型)が検出されたが、トリインフルエンザの臨床的徴候を示したブタはいなかった。さらなる調査にて血清学的検査の結果は全て陰性であった。
2005/08/01	58020	エドワーズライフサイエンス株式会社	ウマ心膜パッチ	ウマ心のう膜	ウマ心のう膜	米国	有効成分	有り	無し	無し	ウイルス感染	米国カルフォルニア州ロスアンゼルス群保険局HP	カルフォルニア州にてstreptococcus equiによるウマ線疫が確認されたことから、その感染力の拡散を軽減するために保健局は健康なウマへのワクチン摂取を要求した。また、その感染の広がり防止策の説明について。
											ウイルス感染	OIE Disease Information 27 (21): (27 May 2005)	米国での水泡性口内炎の発生。ニュージャージ型水泡性口内炎ウイルスと判明しているが、感染の起源など確定でない。APHISによる治療サービスや監視活動は、ニューメキシコ、テキサス、アリゾナ州の農務局により行われているとの報告。
2005/08/09	58021	東洋紡績株式会社	滅菌済み開心術用チューブ及びカテーテル 模型人工肺 滅菌済み人工腎臓用留置針	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	トリインフルエンザ	OIE Disease Information 25 (18): (24 June 2005)	中国の新疆自治区の1農場にて(ガチョウ1201羽、あひる60羽飼養)で63羽が死亡し、117羽が殺処分され、近所の1373羽も処分されている。病原性トリインフルエンザH5N1が原因との報告。
											トリインフルエンザ	CDC Travelers' Health July 21, 2005 http://www.cdc.gov/travel/other/avian_flu_ig_americans_abrords_032405.htm	アジア諸国の家畜におけるアウトブレイクおよびヒトでの散発なH5N1感染症例の報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	CDC Flu Home July 21, 2005 http://www.cdc.gov/avian/outbreaks/asian/htm	アジア諸国での家禽におけるアウトブレイクおよびヒトでの散発なH5N1感染症例の報告。
											トリインフルエンザ	Health Canada January 31 2005 http://www.phac.spc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb040	トリインフルエンザH5N1ウイルスは8つのアジアの国で家禽病を引き起こし、少なくとも44人が感染し、32人が死亡した。感染した大半の人が家禽と密接に接触していた。ヒト-ヒト伝播の証拠は未確認である。
											トリインフルエンザ	The New England Journal of medicine 352, 333-340, 2005	トリインフルエンザH5N1ウイルスは8つのアジアの国で家禽病を引き起こし、少なくとも44人が感染し、32人が死亡した。感染した大半の人が家禽と密接に接触していた。ヒト-ヒト伝播の証拠は未確認である。
											口蹄疫	Rev sci Tech 21: 465-475. 2002	1996~2001年の中での東南アジアにおける口蹄疫への規制と撲滅への取り組みに関するレポート。
											口蹄疫	http://forbes.com/work/feeds/afx/2005/06/22/afx2105052.html	Beijing(北京市)において、ウシでの新たな口蹄疫発生の報告。
											口蹄疫	OIE Disease Information 19 (18): (13 May 2005)	中国のJiagsu(江蘇省)とShandong(山東省)で、それぞれ1ヶ所にて、口蹄疫の発生が確認された。農場すべてのウシが処分された。ウイルスタイプはAsia1、感染の由来は調査中。
											口蹄疫	OIE Disease Information 26 (18): (1 July 2005)	中国の河北省長家口市(Zhangjiakou)にて263頭を飼う農場にて4頭が、口蹄疫に罹患し全例が処分された。
											ニパウイルス	日刊メディカルサイエンスダイジェスト 1: 19-22, 2005	ニパウイルスの出現、生態、症状と感染経路、診断、治療、予防についての解説。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ニパウイルス	Pharma Med 11: 39-42, 2004	ブタと密接に関連して人に被害を及ぼす日本脳炎と、近年、熱帯地域マレーシアで出現したニパウイルス感染症について。ニパウイルスは、新種ウイルスによる新興感染症であり、人では日本脳炎に類似した脳炎症状を発症する。日本脳炎との相違は、ニパウイルスでは急性脳炎を発症し、回復した患者のうち7.5%が2年以内(平均8.5ヶ月)に脳炎の再発を経験している。
											ニパウイルス	ICDDR Http://www.icddr.org/images/HSB_22_person1.pdf	ニパウイルスのヒト-ヒト伝播が2004年、バングラデッシュのFaridpur地区にて発生した流行に関して、ICDDR Bによって報告された。確定患者36名中、27人が死亡。また、ニパウイルス感染の特徴として以前には知られていないARDS(急性呼吸窮迫症候群)が少なくとも6人の患者にて認められた。
2005/08/10	58022	三矢メディカル株式会社	人工心肺用血液回路	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	無し	無し	無し			
2005/08/11	58023	ファイザー株式会社	眼内レンズ	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	米国	有効成分	無し	無し	無し			
2005/08/31	58024	ニプロ株式会社	模型人工肺	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	ニパウイルス	ウイルス 54: 237-242, 2004	マレー半島、バングラデッシュ両地域におけるニパウイルス感染症の流行の比較と、これまで明らかになっている疫学的背景や、現在のウイルス学的研究の進展状況について。
											HEV	Journal of Clinical Microbiology 43: 1684-1688, 2005	HEVには4つの主要な遺伝子型があり、豚からのHEV分離株は遺伝子型3または4に属する。遺伝子型1および2のHEVはヒトのみ認められる。遺伝子型1および2のHEVが豚に存在するか検討した結果、ヒト遺伝子型1または2が流行している国の豚において、遺伝子型1、2は豚HEVには存在しないことが示された。人畜共通の可能性があるのは、遺伝子型3および4のHEVのみであると考えられた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ノロウイルス	Journal of Clinical Microbiology 43: 657-661, 2005	ノロウイルス(NV)について、ヒトNV2種及び豚NV1種(SW918)に由来する組み換えカプト抗原を用いて、家畜豚の抗体保有率の特徴を検討した。その結果から家畜豚間でNV感染が広まっていること、SW918とヒトNV間で抗原性が類似していること、家畜豚で抗ヒト抗体が検出されたことから、人畜共通疾患としてNV胃腸炎を検討する必要があるとのこと。
2005/09/07	58025	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社	滅菌済み心臓用チューブ及びカテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	米国、中国及びカナダ	有効成分	有り	無し	無し	ニパウイルス	ウイルス 54: 237-242, 2004	マレー半島、バングラデッシュ両地域におけるニパウイルス感染症の流行の比較と、これまで明らかになっている疫学的背景や、現在のウイルス学的研究の進展状況について。
											ウイルス感染	Journal of General Virology 85:3377-3382, 2004	ブタ由来の市販ペプシンの非病原性ブタサーコウイルス1型(PCV1)および病原性2型(PCV2)DNAの検出と特性解析の報告。
											重症急性呼吸器症候群	Emerging Infectious disease 11: 446-448, 2005	重症急性呼吸器症候群関連のコロナウイルス(SARS-Cov)がSARS流行語のウイルス感染経路調査中に、1頭の豚から分離された。配列および疫学的分析により、その豚はヒト由来のSARS-Covに感染したことが示唆された。
											ノロウイルス	Journal of Clinical Microbiology 43: 657-661, 2005	ノロウイルス(NV)について、ヒトNV2種及び豚NV1種(SW918)に由来する組み換えカプト抗原を用いて、家畜豚の抗体保有率の特徴を検討した。その結果から家畜豚間でNV感染が広まっていること、SW918とヒトNV間で抗原性が類似していること、家畜豚で抗ヒト抗体が検出されたことから、人畜共通疾患としてNV胃腸炎を検討する必要があるとのこと。
											ウイルス感染	Veterinary Microbiology 104: 113-117, 2004	地理的に異なる地域の豚に由来する豚ヒトTTウイルス(TTV)の特性の遺伝子的評価。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/09/13	58026	ニプロ株式会社	その他の滅菌済み留置チューブ及びカテーテル(血管内留置用カテーテル) 滅菌済み体内植込みチューブ及びカテーテル 滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル 滅菌済み人工腎臓用留置針	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有り	無し	無し	HEV	総合臨床 54: 463-70, 2005	新興感染症としてのE型肝炎について。1997年に米国で常在国への渡航歴のない症例から、日本固有と考えられる(JRA-1株)が報告された。その後、これまで原因不明とされてきた急性肝炎の一部はHEVによって引き起こされていることが明らかになってきている。
2005/09/14	58027	株式会社ジェイ・エム・エス	ヘパリン使用人工心肺回路システム ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用チューブ接続用コネクタ ヘパリン使用単回使用人工心肺用熱交換器 ヘパリン使用体外式模型人工肺 ヘパリン使用心臓血管縫合補助具 ヘパリン使用単回使	ヘパリン	ブタ腸管粘膜	スペイン	有効成分	有り	無し	無し	ブタ連鎖球菌	WHO	中国において、2005年6月末より、206名がブタ由来のStreptococcus suisによると疑われる感染症を発症し、38名が死亡した。発病したもしくは死亡したブタとの密接な接触がヒト感染の主要な感染源であると示唆されている。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	7月23日、四川省で農夫20名が原因不明の疾患に感染し、うち9名が死亡した。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	7月24日、四川省で原因不明の疾患に感染した農夫全員がブタやヒツジを屠殺した経緯があることがわかった。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	7月25日、四川省で原因不明の疾患により農場労働者17名が死亡し、少なくとも12名が病院で重体となっている。今回の致死性疾患は、通常ブタでの感染が認められる細菌Streptococcus suisが病因である可能性が出ている。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が、中国本土の当局により同定された。患者らは、感染したブタを屠殺したり扱った際に、豚連鎖球菌Streptococcus suis_2型に感染したことを確認した。ヒト・ヒト感染兆候は認められていない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	ProMED	中国南西部で死者19名と患者61名を出した原因不明の疾患は、検査の結果、患者は感染したブタの屠殺や処理の際に豚連鎖球菌Streptococcus suisに暴露し感染したことが明らかになったと保健省が2005年7月25日発表した。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	ブタの細菌である豚連鎖球菌Streptococcus suisによる患者117名中、死亡患者が24名に増加した。ヒトへの感染伝播は稀であるが、四川省の事例での死亡率の高さは警戒を要する。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	政府は7月28日に、中国南西部での詳細不明のブタの感染症が新たに6町に拡大し、それによる死者数は27名に増加したと発表した。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	香港在住の男性が最近豚連鎖球菌に感染したと7月28日に報告されたが、これによって、2004年5月以来の香港での患者数が10名となった。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	7月29日に、Streptococcus suisが中国Sichuan省南西部の5カ所の町で検出された。また、1名が死亡した。感染が見つかった新たな5カ所の町は、州都のChengdu, Zigong, Suining, Luzhou, Mianyangである。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	2005年8月1日正午までに、四川省の9市176村から、198名のヒト患者が報告された。8月1日に2名の死亡患者が報告された。また30名が重症である。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	ブタレンサ球菌感染症により36名が死亡し198名が感染した中国南西部で、ブタの疾患への対策としてワクチン接種が行われている。異常に多い感染者数のため、科学者は、ヒト-ヒト感染が起きているのではないかと、あるいは、全く別の疾患によるものではないかと疑っている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	ProMED	8月2日現在、四川省南部のブタ由来感染症流行による死亡患者は、1名増え37名になった。中国衛生部の最新報告によると、いままでに205名のStreptococcus suis type 2の患者が報告された。このうち159名が確認され46名が疑いで、18名が退院し、29名が重症である。全ての患者は発病したブタ、あるいは死亡したブタとの接触歴がある。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	8月4日。保健当局は中国北東部の違法な屠殺場を、罹患ブタを処分していたとして閉鎖した。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	四川省でのブタ由来の疾患で通常より高い死亡率の原因は、短い潜伏期と多臓器不全(MOF)であると医学専門家が述べた。
											ブタ連鎖球菌	ProMED	8月6日、中国四川省で、新たな豚連鎖球菌感染患者2名と死亡患者1名が報告された。患者数の累計は214名に、死者数は39名に増加した。
											ブタ連鎖球菌	Health Canada	7月28日現在、合計で152例が感染し、そのうち31例が死亡、7例が退院した。報告症例のうち13例は検査確定された。中国本土における初期の疫学調査および検査により、感染症例は感染したブタの屠殺もしくは取り扱いに関連したStreptococcus suis感染症を患っていることが示唆された。
											ブタ連鎖球菌	Health Canada	8月3日現在、四川省保健局は死亡38例、重症症例18例を含むヒト疾病症例206例を報告した。中国における初期の疫学的調査により、感染症はブタもしくはブタ製品に職業的に暴露(感染したブタを屠殺もしくは取り扱いに関与したなど)した人々に限定されている。中国当局はヒト-ヒト伝播症例は発見していない。WHOはこの規模のアウトブレイクは通常Streptococcus suisではみられないため、状況を厳密に監視している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	Health Canada	8月3日現在、合計206例が感染し、38例が死亡、26例が退院した。報告のうち43例はStreptococcus suisが原因であると検査確定された。
											ブタ連鎖球菌	OIE	2005年8月5日病因の同定－Streptococcus suis B アウトブレイクの初回確定日
											ブタ連鎖球菌	OIE	中国OIE代表がOIEに対して、獣医局が実施した感染動物における調査結果を報告した。報告によると、最初のブタ症例の確認日は2005年7月25日であった。最初のアウトブレイクは四川省の小規模農場8カ所での発生が確認された。中国のNational Animal Exotic CenterとHarbin Veterinary Research Instituteはトリインフルエンザとニパウイルスを除外した。
											ブタ連鎖球菌	共同通信社	中国四川省資陽市で6月下旬以降、病気の豚や羊を処分した農民らの中で発熱などを伴う原因不明の病気が発生、24日までに58人が発病し、うち17人が死亡、12人が重体となった。
											ブタ連鎖球菌	共同通信社	中国四川省で6月下旬以降、農民らに原因不明の病気による死者が出ていた問題で、中国衛生省と農業省は25日、豚の連鎖球菌に感染したことが原因とする調査結果を発表した。
											ブタ連鎖球菌	共同通信社	中国四川省で6月下旬以降、農民らへの感染が広がっている豚の連鎖球菌の被害は27日までの感染者が131人、死者が27人へと増加。地元では豚の成長促進や病気予防のためとして人のホルモン剤や抗生物質が使われていたとの指摘もあり、遺伝子の変異で菌の毒性が強まっている可能性がある。
											ブタ連鎖球菌	共同通信社	中国四川省の衛生当局によると、同省で被害が拡大している豚連鎖球菌の感染で、1日までに死者が36人、感染者が198人となった。今回の感染規模は「過去最悪」とされ、人が感染後に死亡するまでの時間が従来より短いことなどから、専門家の間では連鎖球菌以外のウイルスなどが媒介役となった可能性も指摘されている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											ブタ連鎖球菌	共同通信社	中国四川省で感染が広がっている豚連鎖球菌による被害は3日までに感染者が206人、死者が38人となった。
											ブタ連鎖球菌	共同通信社	中国四川省で豚連鎖球菌の感染が拡大し、5日までに病死した豚を解体するなどした農民ら200人以上が感染、38人が死亡した。感染ルートは解明されておらず、北京市が発生地産の豚肉を急ぎ回収処分するなど波紋が広がっている。
											トリインフルエンザ	ProMED	2005年5月、インドネシアにおいてはじめて、ブタが高病原性トリインフルエンザウイルスH5N1に感染していることが示された。7月には同国初のトリインフルエンザ感染による死者が発生した。
											トリインフルエンザ	ProMED	7月25日、同国初のトリインフルエンザ犠牲者となった同一家族の3名が居住する町に近い村で、トリインフルエンザに感染したブタを処分する予定である。インドネシアにおける初のヒト死亡。
											トリインフルエンザ	ProMED	7月31日、カザフスタンのPavlodar地区でトリインフルエンザの症状を呈した20才の男性が入院した。その地区では、トリインフルエンザの流行で2005年7月20日から30日の間に600羽のガチョウが死んだ。
											トリインフルエンザ	ProMED	8月2日、Novosibirsk地区での流行は2005年7月初旬に始まり、数千羽の家禽を殺した。国の獣医局は2005年7月最終週にH5N1株を確認した。ロシアでは今までヒト患者は報告されていない。
											トリインフルエンザ	ProMED	8月3日、英国と米国の研究班は、H5N1型トリインフルエンザウイルスが変異してヒト-ヒト感染が可能になったときにおこるシナリオを、コンピュータを用いて試算した。結果は、2百万～4百万の人命が奪われた1918年のスペインでのインフルエンザ流行規模の死者が出る可能性があるという。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	ProMED	8月10日、農業省は死亡した鳥類から分離されたインフルエンザウイルスは、H5N1型株であったと発表した。
											トリインフルエンザ	ProMED	8月10日、ホーチミン市にあるパストール研究所は、2005年7月末に死亡した南部のBen Tre省出身の30才男性患者が、検査でH5N1型ウイルス陽性であったと発表した。この患者はBen Tre省で初のH5N1型ウイルスによる死亡患者である。
											トリインフルエンザ	ProMED	8月10日、首都ジャカルタ近郊で一家3人の死因となったトリインフルエンザウイルスの感染源に関するインドネシア当局の調査で、感染源を特定できなかった。
											トリインフルエンザ	ProMED	8月8日、ロシアのシベリア地方でのトリインフルエンザ感染は拡大している可能性があるが、これまでのところヒトには感染していない。
											トリインフルエンザ	ProMED	8月7日、トリインフルエンザの流行株に対して予防効果があると考えられるワクチンがヒトでの臨床試験で成功した、と政府の研究者が明らかにした。
											トリインフルエンザ	ProMED	8月9日、ベトナムで新たに1名がトリインフルエンザで死亡し、アジアでの死者総数が62名になった。
											トリインフルエンザ	OIE	5月23日、ブタで高病原性トリインフルエンザウイルスサブタイプH5N1の感染が発見された。
											トリインフルエンザ	OIE	8月5日病因の同定一裏庭で飼育されていたニワトリ、七面鳥、アヒルおよびガチョウ症例は合計13村で報告されている。5村においてトリが疾病の臨床症状を示し、死亡したことが報告されており、トリは検査によりH5抗体に陽性を示し、ウイルスが分離された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	OIE	8月1日病因の確定－高病原性トリインフルエンザウイルスタイプH5N1。2005年6月24日～7月7日に医療施設に受診した肺炎を伴うヒト症例3例の家族クラスターの情報が寄せられた。全症例は類似の臨床症状を示しており、全症例死亡した。
											トリインフルエンザ	OIE	8月2日病因の同定－インフルエンザウイルスタイプAサブタイプH5 アウトブレイクの初回確定日－2005年7月29日
											トリインフルエンザ	OIE	8月8日野生のアヒル、ガチョウおよび白鳥(渡り鳥)。合計80羽のトリが死亡しているのが発見された。病因－トリインフルエンザウイルスA型。サブタイプの同定が進行中である。
											トリインフルエンザ	Health Canada	7月20日、インドネシア保健省はトリインフルエンザA(H5N1)による同国で初めての死亡症例を報告した。この症例は38才男性で2005年7月2日に発症し、7月12日に死亡した。この男性の1才および8才の娘もまたトリインフルエンザ様症状を発症し、7月9日および14日に呼吸困難により死亡した。この男性からの検体は検査でトリインフルエンザA(H5N1)に陽性を示した。
											トリインフルエンザ	Health Canada	8月5日、WHOはベトナムにおける新規H5N1トリインフルエンザヒト感染症例3例を報告し、2004年12月中旬以降のトリインフルエンザ症例が合計63例となり、そのうち20例が死亡している。
											トリインフルエンザ	Health Canada	2004年12月～現在までにWHOが確定したヒト症例および家畜のアウトブレイク(カンボジアにおけるヒトの総症例数4例、死亡総数4例、タイにおけるヒトの総症例数0例、死亡総数0例、ベトナムにおけるヒトの総症例数63例、死亡総数20例、インドネシアにおけるヒトの総症例数1例、死亡総数1例)(ベトナムにおける1例のインフルエンザA H5サブタイプによる感染は検査によりNサブタイプは不明と確定されている)。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											トリインフルエンザ	WHO	2004年12月16日～2005年現在(8月5日)までにインドネシアにおいて総症例1例(死亡1例)、ベトナムにおいて総症例63例(死亡20例)、タイにおいて総症例0例(死亡0例)、カンボジアにおいて総症例4例(死亡4例)が報告され、この期間の合計症例数は68例(死亡25例)である。
											トリインフルエンザ	HPA CDR Weekly	家禽および野鳥におけるトリインフルエンザ感染症は多くの国々(最初の感染は2004年)で継続しており、ロシアにおける最近のH5N1アウトブレイクは、感染した渡り鳥によりヨーロッパにH5N1が拡大する高い懸念をもたらしている。
											トリインフルエンザ	Nature 435: 390-1, 2005	インドネシアのブタよりトリインフルエンザが確認された。
											トリインフルエンザ	共同通信社	鶏に高病原性鳥インフルエンザ(H5N1型)が流行しているインドネシアで豚にも感染が起きていることを、同国アイルランガー大と河岡義裕東大教授らの研究チームが19日までに、豚から分離したウイルスの遺伝子解析で突き止めた。
											トリインフルエンザ	共同通信社	中国青海省の青海湖で鳥インフルエンザ(H5N1型)に感染した渡り鳥から検出したウイルスを解析した結果、中国南部の家禽(かきん)から伝わったとみられることが判明、今後、南アジアや欧州にも感染が広がる恐れがある。
											トリインフルエンザ	共同通信社	7月15日、ジャカルタ郊外のバンテン州で12日から14日にかけて死亡した父娘3人が、毒性の強い高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)に感染していた疑いが極めて強いと発表した。
											トリインフルエンザ	共同通信社	7月以降、フィリピンで初の発生が確認されたほか、インドネシアとベトナムではウイルスの人への感染により計6人が死亡。同月下旬にはロシア・シベリアやカザフスタンで鶏やアヒルが大量死するなど、これまでにない拡散ぶりで、流行の懸念は欧州にも広がっている。